

## 日本工業大学建築設計競技

Nippon Institute of Technology  
Architectural Design Competitionその土地に  
開いて/閉じる  
ワンルーム

安田幸一 | 東京工業大学教授  
安田アトリエ主宰

小川次郎 | 日本工業大学建築学部  
教授

吉村英孝 | 日本工業大学建築学部  
准教授

提出期限

入賞発表

授賞式

2022年8月31日(水)

2022年9月中旬 ホームページ  
上にて発表

2022年10月30日(日)

## その土地に

家にふたつ同じものはありません。仮に同じ形の家が存在したとしても、全く同じ土地は存在しないので結果的には異なる家になってしまいます。家の土地の形状、地形や方位はもちろんのこと、周辺環境、風習によっても家は大きく変わります。気候については、天気の良い日には庭や周辺環境の景色を眺め、空気の入れ替えをするために開放的な窓が欲しい時もあれば、台風などの時は雨戸などで閉鎖的な空間にしてしっと耐えることもあります。地球温暖化によって家にはますます相応の強度が求められるようになりました。外部環境にどのように応答できるか、その土地の性格を読み込み、どれくらい家を環境に対して開くか、あるいは閉じるかを考えることは、家そのものを設計する行為に他なりません。



安田幸一 | 1981年東京工業大学工学部建築学科卒業。1983年東京工業大学大学院建築学専攻修士課程修了。1983-02年日建設計。1989年イェール大学大学院建築学部修士課程修了。1988-91年バーナード・チュミ・アーキテクト・ニューヨーク事務所。2002-現在東京工業大学大学院教授、安田アトリエ主宰。主な受賞作品に、2003年村野藤吾賞・2004年日本建築学会賞(作品)「ポーラ美術館」、2013年日本建築学会作品選奨・BCS賞「東京工業大学附属図書館」、2016年JIA建築環境賞最優秀賞(住宅部門)「[[ cell ]]', 2021年JIA優秀建築賞「福田美術館」など。主な著書に、「ニューヨークモダンリビング都市に住む建築家達」、「篠原一男経由東京発の東京論」、「環境デザインの試行」、「林昌二の仕事」など。

## 開いて/閉じる

内部空間においては、家は住んでいる家族のひとりひとりの行動を最大限許容しなければいけません。家族や友人と一緒に過ごしたい時もあれば、一人集中して仕事や勉強するために籠りたい場合も出てきます。コロナ時代において、家の中でもパブリックとプライベートの両方の使い方を家は強く求められるようになりました。すなわち家には、その土地の外部環境の時間的変化や家族形態、行動の変化、そしてコロナ時代にも対応し、それらを受け入れることのできるフレキシブルで包容力のある器であることが望まれています。



とすれば、様々な要望を満足するためには、広大な土地と大きな家があれば良いのですが、日本の厳しい住宅事情からなかなか許されることではありません。ワンルームの家は、最大限の空間を確保し、工夫次第では個の空間のプライバシーも十分に確保できます。有機的な小さな空間のつながりをつくることも有効な手段です。また、縦方向の空間の変化をつけて立体的なワンルームとすれば、高低差での温度変化や風も発生し、住宅内での新しい居場所を創り出す可能性が生まれます。家族で共有する大きなワンルーム空間で家を設計してください。若い夫婦と幼い子供の3人を想定します。環境に対して開いて/閉じることができる、家族同士の生活や心も開くときもあれば、閉じることもできる家です。家の平面は10m×10m以内、高さ10m以下を最大ボリュームとします。家が建つ土地の形状、周辺環境、気候風土は自由に設定し図面に明記してください。時節柄、断熱性能も大切ですが、家全体の換気、空気の流れ、温度差も考慮して、自然と共に暮らすことも想定してください。

## ワンルーム

[設計条件]

- 「その土地に開いて/閉じる ワンルーム」として工夫した点を具体的に示すこと。
- 設計する住宅の周囲の状況がわかるように表現すること。
- 建物の規模は課題文を遵守すること。住むための用途であること。
- どのような人が、どのように使うのか、わかるように表現すること。

[提出図面]

- A1 版用紙 1 枚 (841mm×594mm 縦使い) にレイアウトする。  
コピー、CAD の使用などは自由。
- 配置図: 1/100 敷地周辺との関係を表現すること。  
ただし、1 階平面図と兼用する場合は 1/50 とする。
- 各階平面図: 1/50 1 面以上とする。敷地内の外部空間も設計すること。
- 断面図、立面図: 1/50 または 1/100 それぞれ 1 面以上とする。
- 透視図または模型写真を少なくとも 1 点入れること。
- 提案に応じて図面の縮尺を変えてもよい。
- 図面はパネル化不可とする。

[応募要領]

- 1— 応募資格: 原則として応募時に高等学校の建築科、  
またはこれに準ずる学科に在籍しているもの。  
共同作品の場合は、3 名までのグループとする。  
また、同一人の応募は、2 作品までとする。
- 2— 質疑応答: 応募要項にないものは、  
すべて応募者の判断によるものとし、質疑応答は行わない。
- 3— 提出期限: 2022 年 8 月 31 日  
提出はすべて郵送とし、当日の消印のあるものまでを有効とする。
- 4— 提出先:  
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1 日本工業大学 入試室  
電話番号: 0480-33-7676
- 5— 提出方法: 同一人が複数応募する場合および同一学校から  
複数提出する場合は、応募作品をまとめて郵送する。  
郵送物のわかりやすい箇所に「設計競技応募作品在中」と朱書きする。
- 6— 応募用紙: 提出図面には、応募者の所属学校名、  
氏名等は一切記入してはならない。  
応募用紙をコピーの上、氏名等を記入し、  
応募作品ごとに提出図面の裏面に貼る。

[応募作品の受取]

- 指導教員に対して応募作品の受取確認をメールまたは FAX で行う。
- 受取確認は提出期限後、1 週間程度以内に行う。

[審査]

- 1— 審査委員:  
安田幸一 [東京工業大学教授/安田アトリエ主宰]  
小川次郎 [日本工業大学建築学部教授]  
吉村英孝 [日本工業大学建築学部准教授]
- 2— 入賞発表: 2022 年 9 月中旬ホームページ上にて発表。
- 3— 授賞式:  
2022 年 10 月 30 日、本学において行う。  
出席する入賞者および指導教員の交通費は、本学で負担する。  
当日は、審査委員のスライド・レクチャーと講評が行われる。
- 4— 作品展示: 入賞作品は、授賞式の際に本学 LC センターにて展示する。

[賞について]

- 下記に対して、賞状及び賞品を贈呈する。
- 一等— 1 点/賞品: 図書券 (10 万円相当)/副賞: 10 万円
  - 二等— 1 点/賞品: 図書券 (5 万円相当)/副賞: 5 万円
  - 三等— 1 点/賞品: 図書券 (3 万円相当)/副賞: 3 万円
  - 佳作— 10 点前後/賞品: 図書券 (1 万円相当)
  - 副賞は、応募者の在籍する学校に指導費・研究費として贈られる。
  - 応募者全員に入賞作品集が贈られる。

[図面の返却]

- 応募作品は入賞作品を除き、提出図面のみを発表後 2 ヶ月以内に返却する。
- 入賞作品は返却しないので、必要に応じてあらかじめコピーをとっておくこと。  
また、梱包用の筒等は返却しない。

[出版・展示]

- 入賞作品の公開 (展示・出版) は、本学の判断で行う。
- 入賞作品は、印刷物として刊行する。

[ホームページアドレス/メールアドレス]

HP = <http://nit-kenchiku.jp/activities/> (過去の入賞作品が掲載されています。)  
E-mail = [kenchiku-compe@nit.ac.jp](mailto:kenchiku-compe@nit.ac.jp)

裏のりしろ  
(応募用紙を貼る際、この枠の裏側をのりしろにして下さい)

[第36回]

# 日本工業大学 建築設計競技 応募用紙

## 課題「その土地に 開いて/閉じる ワンルーム」

- 応募作品ごとに、この用紙を  
コピーして使用し、のりやテープ等で  
図面の裏面に貼る。
- 共同作品の場合には、  
○欄に代表者名を記入すること。
- 応募用紙には、楷書で記入すること。
- 応募用紙と図面の作品タイトルに  
食い違いがある場合、図面を優先します。

整理番号  
(記入する必要なし)

作品タイトル			
高等学校名 [正式名]	高等学校		
学校住所	〒	—	都 道 府 県
	電話番号	—	—
	FAX	—	—
指導教員名	メールアドレス		
生徒氏名 学科・学年	フリガナ		科 年
	○		
	フリガナ		科 年
	フリガナ		科 年
	フリガナ		科 年